

市バス事業の経営改革  
(利用状況に応じた運行の効率化)

仙台市交通局



# 1 現計画における位置づけ

## 第5章 戦略に基づく取組み 戦略4 持続可能な経営の確保

### 取組1 経営基盤の強化・経営の健全化

・交通事業の根幹である乗車料収入の確保に向けて利用促進に取り組むとともに、既存資源の有効活用等による増収や、運行の効率化等による費用の低減を図り、持続可能な財政運営に取り組みます。

#### (4) 市バス事業の経営改革

- 利用状況に応じた運行の効率化（便数調整）（約12.5%の事業量削減）
- 利用状況に応じた運行の効率化（一定エリアの路線廃止）（約5%の事業量削減）
- 市バスの運賃改定（令和8年度に7%の運賃改定実施）
- 経営改善によるバスの一般会計補助金の抑制（計画期間内に20億円台半ばに抑制）

⇒ 計画期間内の資金不足比率を20%未満に抑制できる見通しとしていた

# 2 現計画の収支見通しにおける見込みと実績

(税抜 千円)

		R3	R4	R5	R6	R7	R8~R12	累計	
計 画	効果額計	92,558	94,576	148,741	279,592	333,756	2,358,954	3,308,177	
	調整 便数	削減率	▲2.5%			▲2.5%		▲7.5%	▲12.5%
		削減額	76,686			76,686			
	交通 地域	削減率			▲1.7%	▲1.7%	▲1.7%		▲5.1%
		削減額			52,147	52,147	52,147		
	実 績	効果額計	91,261	92,620	153,447				
調整 便数		削減率	▲2.6%		▲1.3%	▲○%			
		削減額	81,960		59,468				
交通 地域		削減率							
		削減額							

削減率については今後検討

※ 「削減率」は令和2年度の事業量見込み（令和2年度実車走行キロ見込み）に対する削減率

※ 実績のうち令和5年度は見込み

## (1) 現経営計画の収支見通しにおける効果額

### ① 需要に応じた便数調整

令和3年度から12年度までの間に、トータルで約12.5%の事業量削減を予定

### ② 一定エリアの路線廃止（＝地域交通転換）

令和5年度から7年度にかけて、約5%の事業量削減を予定

⇒ 約33億円の効果額を見込んでいた。

## (2) 「需要に応じた便数調整」の現在までの実績

### 令和3年4月実施分 ▲2.6%

- ・ コロナ禍における乗車人員の大幅な減少を踏まえ実施
- ・ 全時間帯における便数調整
  - 👉 朝ラッシュ時の都心主要バス停通過時の車内人数を40名程度に調整
  - 👉 23時台最終便を8→3便に
- ・ 路線廃止（「八ツ森線」「工学部・宮教大線 特別支援学校系統」）

### 令和5年4月実施分 ▲1.3%

- ・ 乗車人員の回復低迷を踏まえ実施
- ・ 日中～最終における便数調整
  - 👉 23時台最終便を3→0便に

### (3) 「一定エリアの路線廃止 (= 地域交通転換)」の現在までの実績

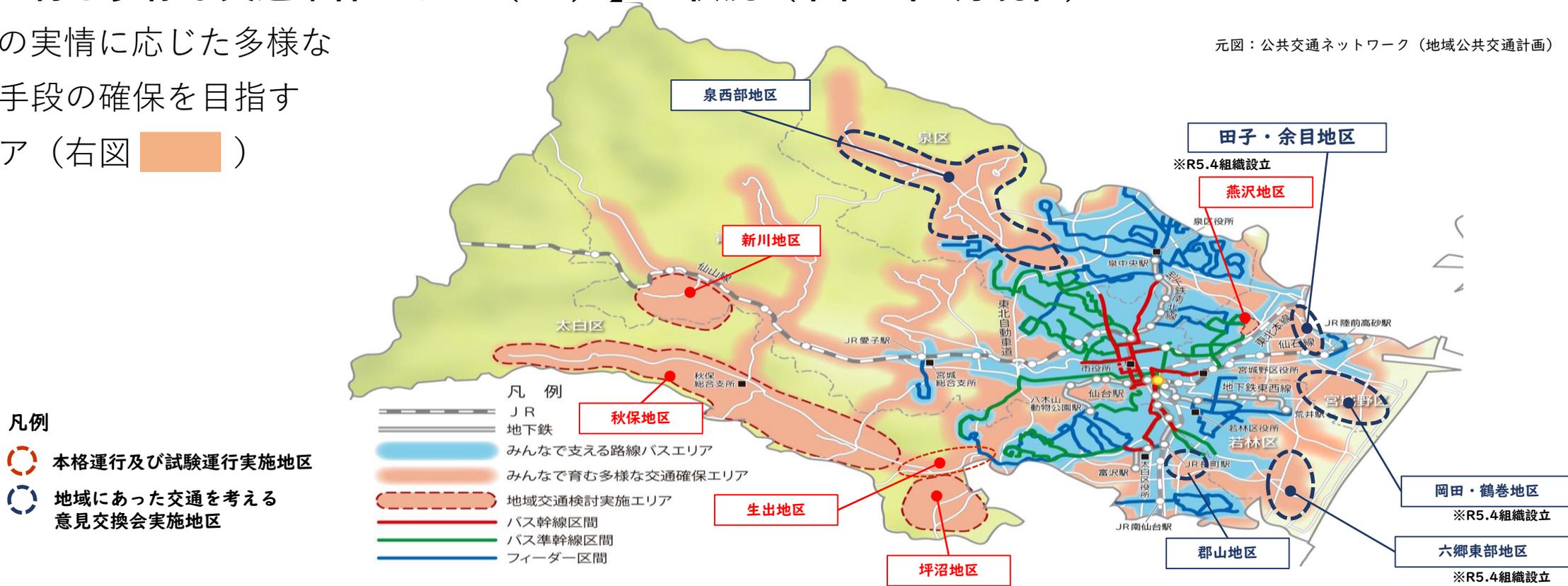
令和5年8月時点 削減率0%

- ・ 仙台市地域公共交通計画では、  
 令和3年度末時点導入(※<sup>1</sup>)地区 4件 (燕沢、新川、坪沼、秋保地区)  
 ⇒ 令和8年度末時点 10件 と目標値を設定している。 ※<sup>1</sup> 試験運行を含む
- ・ 現計画では、令和5~7年度に▲1.7%ずつ地域交通転換による事業量削減 (路線廃止) を見込んだ。

### 【みんなで育む多様な交通確保エリア (※<sup>2</sup>)】の状況 (令和5年7月現在)

※<sup>2</sup> 地域の実情に応じた多様な  
 移動手段の確保を目指す  
 エリア (右図 )

元図：公共交通ネットワーク (地域公共交通計画)



# 地域交通導入の進捗状況（令和5年8月時点）

本格運行	3地区	（燕沢地区、新川地区、坪沼地区）
実証運行	1地区	（秋保地区）
試験運行	1地区	（生出地区）
検討組織設立	3地区	（田子・余目地区、岡田・鶴巻地区、六郷東部地区）
検討組織準備中	1地区	（郡山地区）
意見交換継続中	1地区	（泉西部地区）

地区名	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
燕沢地区 ※導入以前より空白地域	本格運行（R3.4～）			
新川地区 ※既に路線廃止	本格運行（R5.4～）※令和3年3月に路線廃止（効果額は現計画の収支見通しに反映済み）			
坪沼地区	本格運行（R5.4～）※平成18年より路線バス廃止+乗合タクシーに移行済み			
秋保地区	実証運行	本格運行		
生出地区	R4運行の検証	試験運行	実証運行	
※田子・余目、岡田・鶴巻、六郷東部 検討組織設立	★ 運行計画検討	試験運行		
※郡山地区 組織設立に向けた話し合い	.....→★	運行計画検討	試験運行	

※想定される最短のスケジュール

⇒ 令和5年度は地域交通転換による路線廃止はなし。令和6年度以降も現時点では未定。

取組みは着実に進捗しているものの、「地域交通転換による事業量削減」については、すでに転換済みの新川地区（八ツ森線）分以外は、今回の収支見通しの見直しに見込むことは難しい状況にある。

## (4) 今後の見通しについて

- ・ 地域交通転換による事業量削減は見込みづらい状況。
- ・ コロナ禍の影響が残る中、今後の運賃改定を見据えつつ、令和6年度も便数調整をせざるを得ない状況にあり、その削減率等について検討していく。
- ・ その後の便数調整については、令和6年度の便数調整の効果や、運賃改定幅等の議論とあわせて改めて検討を進めるとともに、路線のあり方についても検討を行い、運行の効率性を高めていく。